

組織病理検査診断書

施設名	ベンチャー動物病院	カルテ番号	2244
患者様名	名牟田 ルアン 様	受付番号	140322
齢数	3 歳 4 か月	受付日	2014 年 4 月 1 日
性別	去勢済雄	発行日	2014 年 4 月 7 日
動物種	猫	送付部位	肝臓
品種	日本猫		

診断名

肝臓：

病変内に桿菌を伴う、多巣性、壊死・化膿性、肝炎

Multifocal, necrosuppurative hepatitis with intralesional bacilli

所見

生検標本において、肝実質に多巣性に、肝細胞の壊死と好中球浸潤によって特徴づけられる大小様々な円形病変（巣状壊死巣。写真 1 と 2）が形成されています。その他の肝細胞においても、軽度～中等度の空胞変性や孤在性壊死がしばしば観察されます。類洞、中心静脈、小葉間静脈は、びまん性かつ中等度にうっ血しています。肝臓被膜に著変は観察されません。標本上、腫瘍性変化は観察されません。

肝臓の標本にワルチンスターリー染色（写真 3）とグラム染色（写真 4）を施したところ、前者の染色で、巣状壊死巣に一致して、連鎖する桿菌が細胞外に検出されました。この桿菌はグラム染色陰性でした。細菌は、壊死巣以外の類洞にも認められました。

コメント

上記の結果は、生検時に採取された細菌スワブ標本から培養された *Bacteroides sp.* に矛盾しません。

Bacteroides は一般的には消化管に存在し、日和見感染症や敗血症を起こすことがあります。猫における常在部

位や病原性の記載は文献上明らかではありませんが、念のため、集中的な抗菌治療が推奨されます。

免疫を低下させる全身性疾患（例：猫免疫不全ウイルス感染症）の有無についても、機会があれば確認することをお奨めいたします。

診断に関しましてご不明な点やご質問等ございましたら、お気軽に診断医までご連絡ください。

診断医：三井 一鬼 獣医師、獣医学修士、米国獣医病理学専門医

組織写真（全4枚）

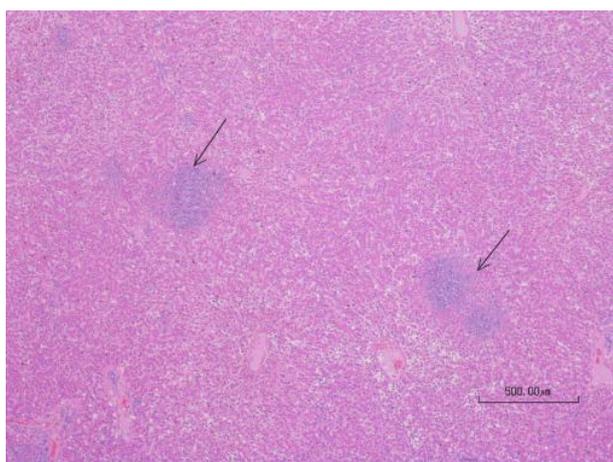


写真 1：肝臓の低倍像です。矢印は巣状壊死巣を示しています。

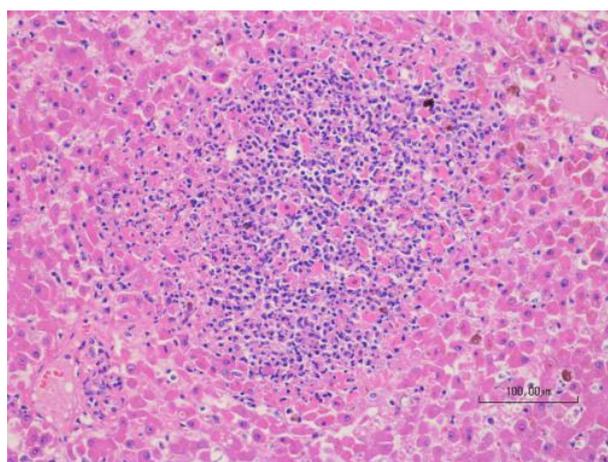


写真 2：肝臓の高倍像です。巣状壊死巣の拡大図です。

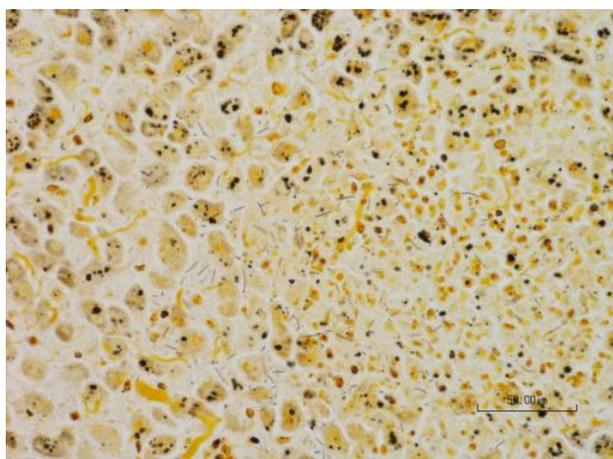


写真 3：ワルチンスターリー染色で桿菌が明瞭です。

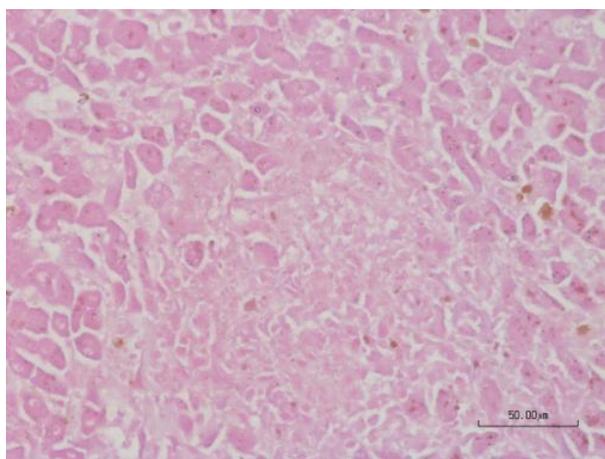


写真 4：グラム染色で桿菌は陰性です。